

## 令和4年度第3回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和4年6月18日（土） 9時30分から12時30分まで

テーマ：自然再生区のヨシ原で植物を観察しよう

場 所：霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生事業区H区周辺

センター敷地内のビオトープと自然再生区に行く途中の蓮田の畔を含む

案 内：小幡和男（霞ヶ浦環境科学センター）

担当職員：小幡和男、小川達己、久保谷秀明、齋藤 均（4名）

参加者：26名

パートナー：5名

結 果：

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生事業区で取り組んでいるヨシ原の再生地で湿地の植物を観察しました。あわせて、センター敷地内のビオトープと自然再生区に行く途中の蓮田の畔でもいろいろな湿地の植物を観察することができました。

まず、センターでの観察です。上池でハンゲショウの花が咲きだし、花のつけ根の葉が白くなっていました。この色の変化は花粉を運ぶ虫を引き寄せるためと考えられています。ビオトープでは自然再生区で見られるヨシ、セイタカヨシ、マコモ、ジョウロウスゲなどを予習を兼ねて間近に観察しました。また自然再生区では見られない絶滅危惧種ミクリが実をつけているのを観察しました。次に、蓮田で事前に採集してきておいたウキクサとコウキクサを観察しました。大き目の葉に根が数本つくウキクサと小さい葉に1本の根がつくコウキクサの違いを勉強しました。

移動途中の蓮田とその畔でもいろいろな湿地の植物を観察することができました。絶滅危惧種ミズアオイが休耕田に生えていました。ミズアオイは万葉の時代ナギと呼ばれ、染料や食料として利用されていました。さらに、繁殖力の高いアシカキ、よく似たケキツネノボタンとタガラシの違い、ガマの穂状の花のつくり、蓮田で引き抜かれていたマコモを観察しま

した。マコモの地下茎は断面を見ると節になっており、日本で越冬するハクチョウの餌となります。

自然再生区に着いて少し休憩を取ったあと、堤防の上から自然再生区の全体の様子が見えるところで、その構造を資料を使って勉強しました。いよいよ植物の観察です。自然再生区の湿地では、ヨシ、ヒメガマ、ウキヤガラ、フトイなどが主な優占種となってヨシ原を形成しています。そこにはタコノアシ、ジョウロウスゲなどの絶滅危惧種、キシウスズメノヒエ、ミズヒマワリ、オオバナミズキンバイ、オオフサモなどの外来種が生育しています。また、三大有毒植物のひとつドクゼリを観察することができました。ドクゼリは茎の根元が膨れて断面を切ってみるとタケノコのような節を見ることができます。これがセリとの見わけの決め手であり、実際に観察することができました。さらに堤防沿いを移動しながら、シヨウブとキシヨウブの比較、イグサとコゴメイの比較、絶滅危惧種ヤナギトラノオが実をつけている様子、ホソバノヨツバムグラの小さな白い花などを観察しました。最後に絶滅危惧種アサザが生育するところでその花を観察しようと試みましたが残念ながらタイミングが合わず花を観察することはできませんでした。しかし元気にアサザが生えている様子を確認することができ、全員満足して観察会を終了することができました。

上記以外の観察できた植物：

コウホネ、ホザキノフサモ、カラムシ、オモダカ、ハス、ネズミムギ、カズノコグサ、セリ、ミコシガヤ、シロネ、コモチマンネングサ、ツルマンネングサ、ヨコハママンネングサ、ミゾソバ、サデクサ、ヤエムグラ、オギ、クサイ、アメリカオオアカウキクサ、ノハナシヨウブなど

# 第3回霞ヶ浦自然観察会



ハンゲショウの観察



ヨシとセイタカヨシの観察



蓮田の畔での植物観察



ガマの花の観察



マコモの地下茎の観察



堤防から自然再生区の全体を見る



自然再生区のヨシ原での植物観察



三大有毒植物といわれるドクゼリ